

第4回 技術者倫理研究会

「技術者倫理と内部告発」を考える

技術の高度化、巨大化に伴い、各界の組織内部において不祥事が頻発している。その多くは、内部告発（ホイッスル・ブロウイング whistle-blowing）によって表面化したものである。いま、内部告発を正面から考えようとする気運が高まっている。公益通報者保護制度のあり方について、技術的な意見が交わされることも多い。

そこで、第4回技術者倫理研究会は「技術者倫理と内部告発」をテーマに開催する。

講師・田邊朋行氏の御専門は、企業倫理、環境法、原子力法である。とくに、原子炉等規制法および公益通報者保護法における申告制度について法学的視点から考察を行い、その改善すべき点を詳細に指摘されている。ホイッスル・ブロウイング制度の国際的な差異や、技術分野における差異などを含めたお話にも期待したい。

講師・鈴木啓允氏は土木工学の御専門として、複数の大学で技術者倫理の教鞭をとる傍ら、技術者倫理に関する講演・執筆活動を精力的に行っておられる。とくに近刊の『談合がなくなる - 生まれ変わる建設産業』では、談合をなくすための前向きな“処方箋”が提案されている。建設産業において、内部告発をいかに捉えていくかのお話を期待したい。

内部告発はとかくタブー視されがちであるが、私たち建築関係者の技術者倫理として、いわばタブー化している「内部告発」に、今後どのように取り組みうるのか。そこから脱却すべき糸口を模索し、今後、建築技術に相応しいしくみを考えるための契機となれば幸いである。

<主催> 日本建築学会 倫理委員会

日 時：2007年5月7日（月）14:00～17:00

会 場：建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20 03-3456-2051）

プログラム（敬称略）：

1. 主旨説明（10分）

島田良一（倫理委員会委員長、東京都立大学名誉教授）

2. 講演「原子力安全規制と内部告発者保護制度（仮）」（60分）

田邊朋行（財団法人電力中央研究所社会経済研究所主任研究員）

3. 講演「建設産業における企業倫理の確立と実践（仮）」（60分）

鈴木啓允（NPO 法人建設環境情報センター理事長代行）

4. 討論（40分）

司会：山本康弘（倫理委員会幹事、元東京工芸大学教授）

伊藤邦明（倫理委員会幹事、東北大学名誉教授）

参加費：会員 2,000 円、会員外 2,500 円、学生 1,500 円（資料代含む）

定 員：160 名

申込み：日本建築学会事務局 総務部 小野寺

E-mail：onodera@aij.or.jp TEL03-3456-2051

講師の紹介

田邊朋行氏（電力中央研究所社会経済研究所主任研究員）

学習院大学卒業

京都大学大学院博士後期課程修了（同大学にて博士（エネルギー科学）を取得）

1991年電力中央研究所入所

2002年から2006年まで社会技術研究システム研究員兼任

現在、大阪大学大学院工学研究科特任准教授、麗澤大学企業倫理研究センター客員研究員等を兼務

専門：科学技術と法、技術倫理

著書：『世界の環境法』（共著）、国際比較環境法センター、1996年

『化学物質規制・関連法辞典』（共著）、丸善、2003年

『融ける境超える法5 環境と生命』（共著）、東京大学出版会、2005年

論文：「JCO 臨界事故にみる法的課題」環境法政策学会誌第4号、2001年

「規制システムと企業コンプライアンス活動との協働」、ジュリスト1307号、2006年

鈴木啓允氏（建設環境情報センター理事長代行）

1945年生まれ

早稲田大学理工学部土木工学科卒業、同大学院博士課程修了

コロラド大学にて、マスターオブサイエンスを取得

(社)日本建設業経営協会評議員として、中央技術研究所の設立に参加

共同企業体適正運営推進協議会委員（建設省）、建設業刷新検討委員会委員（建設業七団体）

などを歴任

弘前大学、ものづくり大学、国土館大学などで技術者倫理等の教鞭をとる傍ら、講演・執筆活動に当たる

著書：『技術者社会の崩落』、日建建設工業新聞社、2000年

『サステイナブル建設経営 - 建設倫理考 続 ゼネコンに、いま何が求められているか』、日建建設工業新聞社、2000年

『はじめに技術者倫理ありき』、日建建設工業新聞社、2004年

『談合がなくなる - 生まれ変わる建設産業』（共著）、2006年